

《幾つかのオブリガート楽器付き変奏曲(へ長調)》(1809年)¹

水谷 彰良

幾つかのオブリガート楽器付き変奏曲(へ長調) *Variazioni a più strumenti obbligati*

作曲 1809年 [推測]

初演 1809年8月25日ボローニャ、リチェーオ・フィラルモーニコ (Liceo filarmonico) [推測]

編成 クラリネット (in Si b)、ヴァイオリン I・II、ヴィオラ、チェロ、管弦楽 (1フルート、2クラリネット、2ホルン、ファゴット、弦楽5部)

演奏時間 約10分

自筆楽譜 未発見または消失。重要な筆写譜がボローニャの市立音楽図書館に所蔵 (Bologna, Civico Museo Bibliografico Musicale, TT [Alunni] XXIV primo)。

初版楽譜 *Quaderni Rossiniani IX*, Fondazione Rossini, Pesaro, 1959., pp.1-44.

現行譜 上記のエディション

全集版 未成立

構成 へ長調、2/4拍子、アンダンテ・ソステヌート～アンダンティーノ

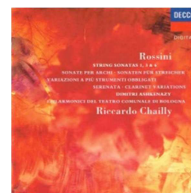
解説

Gossett-2001²は作曲時期を「1809年頃」としたが、WGR-1³における「1809年」を採用した⁴。自筆楽譜の存在は確認されないものの、1809年8月25日にボローニャのリチェーオ・フィラルモーニコで《シンフォニア、変ホ長調》と共に演奏された《*Sinfonia a più strumenti obbligati*》がこの作品に該当すると推測 (全集版 VI / 1 序文 pp. XXV-XXVI)。同時代の筆写譜もボローニャに現存する (前記 TT XXIV.1. タイトル記載は「*Variazioni a più strumenti obbligati del Sig. Gio. no Rossini. 1809*」)。

編成は、五つのコンチェルト [オブリガート] 楽器 (クラリネット、ヴァイオリン I・II、ヴィオラ、チェロ) と伴奏管弦楽からなる。構成は、序奏 (へ長調、2/4拍子、アンダンテ。ソステヌート) とオブリガート楽器による自由な形式の主題と変奏 (アンダンティーノ) からなる。主題と変奏は、ヴァイオリン II～ヴァイオリン I～管弦楽のリトルネッロ～チェロ～ヴァイオリン II～リトルネッロ～コントラバス～リトルネッロ～クラリネット～リトルネッロ～ヴァイオリン I と続き、短い終結部で閉じられる。

推薦ディスク：

- ・ Riccardo Chailly 指揮ボローニャ歌劇場管弦楽団 (1991年録音 Decca 433 701)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシーニ全作品事典(25) ロッシーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。
² *The New Grove Dictionary of Music & Musicians*, 2-ed., Macmillan, 2001. 所収のフィリップ・ゴセット (Philip Gossett) によるロッシーニ作品目録
³ *Works of Giachino Rossini*, vol.1. Chamber Music without piano, Bärenreiter, 2007.
⁴ *Ibid.*, p. XIV.